

不合格になった五つの教訓

- 1、なぜ、合格できなかったのか？
- 2、合格できなかった原因は、何なのか？
- 3、なぜ、今の教材で合格できなかったのか？
- 4、試験対策の方法は、正しかったのか？
- 5、必ず合格する方法とは、何なのか？

- 弊社が試験直後に行った「聞き取り調査」(3ページ参照)では、「合格に達した」と答えた施設数は、32件中9件(28.1%)にしか過ぎなかった。
- この結果を受けて、全体の約7割以上が不合格であることが判明した。合格率は、例年30%台に留まっており、受け入れ施設が多大な経費と労力を費やしているにも関わらず、その努力は徒労に終わっている。

1、【なぜ、合格できなかったのか？】 <理解できていない最大の要因>

【原因1】外国人を外国人として扱わず、日本人同様に扱うため。例1)、女は女であり、男になりえず。異文化社会の人間の思考性を理解できず、外国人に対する対応姿勢に根本的な問題があった。例2)、日本人独特の精神「やり・もらいの精神」口口してあげる」が濃厚すぎる。そのため、受験者は「自助努力の精神」が薄れて、甘えの感情だけでなく、我がままな感情をも持つように至った。このことが最大の不合格の原因だ。(外国人への対応能力の無さ)

【原因2】来日前の日本語教育、直後の集中教育、入職後の日本語教師や日本語学校、専門学校での教育、さらには、勤務時間内の職員による教育などは全て、口口してあげるの精神の表れだ。

解決方法は、「自学能力を養う」以外には無い。外国人労働者を受け入れている諸外国は、日本のような手厚い保護策は一切、用いていない。即ち、来国する前に当然のことながら、母国人と同等の母国語力があることを前提とする。その上で、専門知識の有無を図りながら、その向上策を一番の重要な教育として捉えている。また、「能力無き者は去れ」という実力主義の考えが大前提にあり、その人物の能力査定を絶対必要条件としている。

【原因3】このような状況を生み出したのは、日本政府が「外国人労働者」として明確に位置づけた政策を行わず、曖昧な「国際貢献」などと称した主観的で、非科学的な思考の基に行った結果だ。この政策は、諸外国から見れば、「利用しやすい、お人よし政策」と指摘されている。送り出し国のこの考えが、不合格の大きな要因となっていることを、認識すべきだ。

2、【合格できなかった原因は、何なのか？】 <覚えさせる教材が最大の要因>

【原因1】上記の原因1の「外国人への対応能力の無さ」が起因して、客観的に【言語能力の到達度】を把握することなく、ただ闇雲に日本語を教え、覚えさせる学習に終始していたため。そして、受験日までの【学習計画】を、言語能力に従った「学習段階」を認識することなく、無計画・無秩序な方法で、覚えさせる教材を使って教育を行ったため。

【原因2】言語能力が試験問題に対応できるものでないままに、過去問題を教材としてマークシート方式の解答を幾度となく行うことは、即ち、マークシート方式では記号の選択だけでよいので、受験者の本当の言語能力を知ることができない。そのため、担当者は一定程度の言語能力があると錯覚してしまうために、不合格の原因を作り出してしまう。

【原因3】「言語能力育成」と「専門知識習得」とを明確に区分できなかったため。その上に、入職当初から受験対策として、「暗記法の事業団教材や過去問題集」などを使用し、【言語能力習得過程】を無視した教育を行わせたため。また、受験者の言語能力に合わない日本語学校や専門学校に入学させた結果、【受験者の学習意欲を削ぐ】ことが、不合格の原因となっている。

国家試験終了後の施設の声

<延長で残っていた施設の声>

(延長組)

「昨年の試験よりも難しい・・・！！」

- 事業団の教材と指導に従って一年間勉強してきたが、候補者二名ともに昨年の問題よりも難しかったという感想だった。
客観的に見て学力不足のために、残念ながら合格することは無理だろう。(山口県・V施設)

「専門用語や知識の習得に欠ける！」

- 日本語力は「到達度試験」に参加して、身につけられ、介護の参考書も読み進められるようにはなっていた。
しかし、やはり専門知識と用語が難しかった。もう少し、現場で専門知識が備わっていれば良かったと思う。日本語力は十分にあるのに、専門知識が養えずに本当に残念だ。
(東京都・U施設)

「合格はギリギリ！！」

- 前回不合格だったために反省して、事業団の教材や指導から離れることを決めた。この一年間、「到達度試験」に参加した結果、日本語力が十分についた。
しかし、試験を受けてみた結果、専門知識が難しく、合格はギリギリのラインだが、一年弱でよくここまで成長したと思っている。
(兵庫県・V施設)

<現役で受けた施設の声>

(現役組)

「合格できそう！！」

- 入職してから半年間は事業団の教材と指導に従ってきたが、教育効果が見られないために「到達度試験」に参加した。
「到達度試験」に参加したことで、目に見えて日本語力は身につけられ、問題を読解できる力は身につけられていた。そのため、自己採点では一名は80%以上、もう一名は70%位のでき具合で、二名とも合格できそうだ。
- 職員は忙しいので、なかなか受験勉強を見てあげることができなかったが、考察指導に従って、介護の参考書を自分達で読み進めながら、自学できていた。その中でも、やはり、専門知識と専門用語が難しく、大変だったようだ。
(東京都・N施設)

「事業団の試験結果と国家試験結果の食い違いが大きい！！」

- 事業団の教材と指導に従って、三年間一生懸命学習してきた。事業団が行う試験では二名共、全国で上位に位置していたので安心してた。しかし、国家試験の自己採点の結果は、一人が70%位のでき具合で、もう一人は合格が厳しい状況にある。なぜ、こんなに事業団の試験結果と国家試験結果とでは違いがあるのかを疑問に思っている。(鹿児島県・H施設)

【受験直後の自己採点による評価を緊急調査】

- 今年1月26日に行われた「介護士国家試験」直後の、1月29日～2月3日まで、全国の施設に電話で「自己採点評価」を聞き取り調査した。聞き取り内容は右表の通り。
- 右表の数値は、全体傾向を表すものとして考えるならば、今年の合格率は昨年より下回る可能性が高い。なお、特徴としては、延長組の合格予想率が非常に低いことが挙げられる。
- この数値結果の背景には、事業団が全国の施設に大量に配布した「教材の質」と「研修の質」、そして、訪問時における「教育指導の質」が問われている。この【質の問題】は、今後ますます、表面化されるだろう。

- 外国語習得では、特に使用する教材が重要だ。教材が「教育効果」を決定的に左右する。そのためには、教材作成は十分な「研究と実証例」を積み重ねた上で製作されるものだ。この2点を踏まえた上で、事業団の教材が作られているとはとても思えない。その結果が、例年の実績として出ている。

※ 聞き取り施設総数 32件

施設数	合格の有無	%
9	合格	28.1
14	不合格	43.7
8	無回答	25
1	不明	3.1

【 国家試験受験能力到達度試験の特徴 】

※ 【国家試験受験能力到達度試験】の特徴は、自学能力を養い諸技能が並行的に伸び、受験者の対応能力が養えます。 教育効果は、平成 24 年度国家試験で受験者数 95 名中 36 名が合格し、その 36 名中 19 名 (52.7%) がこの【到達度試験】を受けた受験者でした。 25 年度では、128 名の国家試験合格者のうち、【到達度試験】参加者は 76 名で、合格者は 68 名 (89.4%) でした。

※ 本試験は、あくまでも、専門領域で働く人間として必要な言語能力を養うことを重要視した学習方法です。 さらに、受験者が日常の業務の中で、日本人職員とのコミュニケーション能力をも身につけることができるために、病院や介護施設などで実践力のある要員として育成することを目的としています。 定期的試験結果を数値化し、職員に指導の仕方を考察票でお送りしておりますので、安心してご指導頂けます。 是非、ご参加下さい。

レベル	合格基準	特徴	技能の種類	合格
3段階	75 % 専門学校卒の 言語能力	※ 国家試験に対する合格力と知識力を養う ◎ 国試問題に対する「文脈読解」と「要約力」 に対応できる学習をさせる。	★ 5 技能 ・ 瞬時反応 ・ 文脈読解力 ・ 要約力など	職域 言語能力を養う
2段階	90 % 専門学校 2 年 の言語能力	※ 専門知識の活用力を養う ◎ 国試過去問を使った「漢字専門用語」(漢字 熟語)と「文脈読解力」に対応できる学習を させる。	★ 4 技能 ・ 瞬時反応 ・ 漢字熟語力 ・ 文脈読解など	
1段階	90 % 専門学校 1 年 の言語能力	※ 専門知識の運用力を養う ◎ 国試過去問を中心とした問題で「読解力」 (語彙力・文意力)に対応できる学習をさせる。	★ 3 技能 ・ 瞬時反応力 ・ 文意読解など	
F段階	85 % 高校 3 年の 言語能力	※ 専門領域の基礎力を養う ◎ 介護・看護の基礎知識を基に具体的な事例で 学習させる。	★ 4 技能 ・ 瞬時反応力 ・ 文意読解など	生活 言語能力を養う
E段階	80 % 高校 1 年の 言語能力	※ 日本語の「規則性と用法と運用力」を養う ◎ 日本語の規則性を基に、学習目的にそった 運用力が身につく学習をさせる。	★ 9 技能 ・ 文読解力 ・ 図読解力など	
D段階	75 % 中学校 2 年の 言語能力	◎ 日本語の用法を基に、学習目的にそった 自学力が身につく学習をさせる。	★ 11 技能 ・ 対応力 ・ 要約力など	
C段階	70 % 小学校 6 年の 言語能力	◎ 日本語の規則性を基に、学習目的にそった 自学力が身につく学習をさせる。	★ 11 技能 ・ 瞬時反応力 ・ 文脈力 など	基礎 言語能力を養う
B段階 N2レベル	70% 小学校 4 年の 言語能力	※ 日本語の基礎知識を養う ◎ 日本語を表現するために必要な「基礎的な 知識とその使い分け」ができる能力を中心 として学習させる。	★ 11 技能 ・ 瞬時反応力 ・ 読解力など	
A段階 N3レベル	75 % 小学校 3 年の 言語能力	・ 構文力・読解力・文字(ひらがな・カタカナ・ 漢字)・助詞・接続詞の使い分けなど。	★ 13 技能 ・ 瞬時反応力 ・ 文字認知力 ・ 読解力など	
初回	75 %	受験者の現状の日本語能力を観る。		

【国家試験受験能力到達度試験】参加のすすめ

- 1、受験者には試験結果に基づき、考察票（言語能力到達度）にあわせて学習指導をしますので、担当者が客観的な「考察票評価」に基づいて現状を把握することができます。
さらに、担当者が考察票の指導方法に基づいて具体的な学習指導ができるために、その結果、受験者の言語能力が向上します。
- 2、言語能力の到達度チェックは、2ヶ月単位に到達度数値を見ることが大切です。
常に、受験者の言語能力の変化を定期的に観ることで、国家試験受験能力の向上を促すことができます。今後、受験勉強と同時に、職域での実践力がある人材育成を目指すことが重要です。
そのためにも、【国家試験受験能力到達度試験】を受けることをおすすめします。
- 3、受験対策は、国家試験過去問題だけに偏ることなく、過去問題以上の難易度の高い試験問題に対応できる能力を養うことが、国家試験合格率高めることとなります。この理由から、本試験のEレベル～国試3レベルまでは、国家試験問題よりも高度な問題作成となっていますので、必然的に合格率の可能性が高まるように作られています。

【到達度試験段階】

3段階
2段階
1段階
F段階
E段階
D段階
C段階
B段階
A段階
初回

<合格能力育成>

- 三段階終了時には、「日本人の専門学校卒の言語能力」を有し、国家試験問題に十二分に対応できる能力と同時に、専門知識を着実に身につければ、国家試験合格能力が十分に身につけられる。

<受験能力育成>

- D段階を終了すれば、日本語の基礎力と生活上に必要な言語能力が身につき、「日本人の中学校2年生と同様の言語能力」が養われる。また、会話力だけでなく、読解力と構文力も同様になる。

※ 学習段階内容と特徴は前頁の【国家試験受験能力到達度試験の特徴】を参照

<受験能力+合格能力育費用>

190,030 円

@17,500 円×10回+教材(15,030 円)

※ 確実に言語能力を定着させるため、再試験を行います。再試験料金は受験料に含まれます。

【国家試験受験能力到達度】試験と【教材】申し込み書

<送付先：FAX 03-6677-0632>

施設名：

ご担当者名：

所在地：〒

電話：

FAX：

メールアドレス：

<受験人数> 名

<受験者の国籍> インドネシア (名) フィリピン (名)

※ 下記の料金は受験者1名あたりの金額です。該当するレベルを○で囲んで下さい。

<単発受験>

初回・レベルA・B・C・D・E・F・国試1・2・3 @20,000 円 × 合計 円

<継続受験>

初回から全10回(教材費・考察指導料込み) 190,030 円 × 名 合計金額 円

ことばの研究社 〒701-0102 岡山県倉敷市庄新町 9-4-12

電話：086-451-8155 FAX：086-451-4244 メール：kotoba_ken@yahoo.co.jp

